

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
22	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol Use Disorder (AUD) among Tuberculosis Patients: A Study from Chennai, South India 結核患者におけるアルコール使用障害：南インド・チェンナイからの研究	
<b>執筆者</b>	
Suhadev M, Thomas BE, Raja Sakthivel M, Murugesan P, Chandrasekaran V, Charles N, Durga R, Auxilia M, Mathew TA, Wares F.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
PLos One. 2011;6(5): e19485.	
<b>キーワード</b>	
結核、アルコール使用障害、インド	
<b>要 旨</b>	
<b>背景：</b> 結核患者におけるアルコール使用障害(以下 AUD)は無アドヒアランスと治療効果不良と関連している。チェンナイの結核研究センター(TRC)の研究は、アルコール依存症が南インドにおける DOTS プログラムのもとでの中途離脱と死亡の主な原因の一つであるということ報告した。ゆえに、インドのチェンナイのヘルスセンターの結核患者の間で飲酒と AUD の罹患率を推定する研究の実施が計画された。	
<b>方法：</b> この研究は、チェンナイの 10 施設における cross-sectional コホート研究であり、WHO が開発した AUDIT スケールによる結核患者のスクリーニングに続く環境評価を含んだ。4 施設がランダムに選ばれ、2009 年 7～9 月のすべての結核患者が飲酒の AUDIT スケールにてスクリーニングされた。	
<b>結果：</b> 490 名の患者のうち 66%が男性で、66%が 35 歳以上で、57%が既婚者で、58%が月 5,000 ルピー未満の低所得者グループに属していた。女性では飲酒は報告されなかった。全体で、490 名の結核患者のうち 29%(141 名)がアルコールを消費すると判明した。141 名の現飲酒者のうち 52%(73 名)が AUDIT スコア 8 より上であった。35 歳以上、低教育レベル、月 5000 ルピー未満、離婚そして治療カテゴリー 2 は、飲酒しない結核患者よりも飲酒する結核患者で統計学的に有意であった。	
<b>結論：</b> 結核患者の AUD は早急に取り組まれる必要があり、この結果は結核ケアへのアルコール治療の統合の重要性を示唆している。	